

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 24 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23330175

研究課題名(和文) 北欧における高齢者介護のニーズ判定方法に関する実証的研究

研究課題名(英文) Study on Eldercare Assessment in the Nordic Countries

研究代表者

石黒 暢 (ISHIGURO, NOBU)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・准教授

研究者番号：20273740

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,500,000円

研究成果の概要(和文)：デンマークやスウェーデンの高齢者介護制度においては、ホームヘルプ供給主体の多元化により、ホームヘルプ供給部門とニーズ査定部門を分離させたBUMモデルという体制がとられている。現場職員が利用者にケアを提供しながらモニタリングし、サービス内容の調整にフィードバックしていくというシステムが機能しにくいため、サービスとニーズのミスマッチが生じうるといったデメリットもある。ケアの現場ではホームヘルパーが中核的な役割を担い、利用者のニーズの変化に柔軟に対応し、「関係的な力」(relational power)を行使することによって、現場と判定の乖離によるBUMモデルの弊害を改善していることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The home care systems in Denmark and Sweden have introduced BUM model, which means care delivery and care assessment are divided. The model has a disadvantage where care services do not match the actual needs of the elderly, since care assessors are not care workers who have the daily contact with them in care setting. The empirical research showed that care workers (home helpers) play an essential role in preventing the mismatch in care services. They use relational power and deliver the care flexibly according to the needs of the care recipients

研究分野：社会福祉学

キーワード：高齢者介護 ケア 北欧 デンマーク スウェーデン 介護労働

1. 研究開始当初の背景

(1) デンマークやスウェーデンをはじめとする北欧諸国は、従来、公的セクターが社会サービス供給の大半を担っていたが、近年、大きな変化が起こっている。1990年代からNPM(ニュー・パブリック・マネジメント)の流れを受け、経済性、効率性、有効性に焦点が当てられるようになり、介護供給における民間委託が進行している。自治体だけでなく、認可を受けた民間事業所もホームヘルプの供給主体として加えられ、利用者が自由に事業所を選択できる制度が導入されている。北欧においてはこのような福祉供給体制の変容に伴って新しいニーズ査定(日本の要介護認定とケアプラン作成にあたる)の方法が導入され、ホームヘルプ供給部門とニーズ査定部門を分離させたBUMモデルという体制がとられるようになった。これは、利用者自らがサービスを受ける事業所を選択するにあたって、ニーズ判定部門が、公的ホームヘルプ利用に誘導しないよう、その中立的立場を確保するためである。日本の民間の居宅介護支援事業所の公正・中立性が問題になっているのとは対照的である。

(2) 日本においては1980年代頃から北欧の高齢者介護システムに関する関心が高まり、デンマークやスウェーデンのホームヘルプに関しても研究が蓄積されつつある。しかし、北欧の福祉研究においては、制度の概要や量的充実度といったマクロレベルの分析が主で、どのような仕組みでニーズ判定が行われるのか、ホームヘルパーがニーズ判定に基づいてケアをどのように提供しているのか、どのような方法でモニタリングを行い、現場の情報を判定部門に伝達していくのか等、ミクロレベルで詳細に分析した研究がほとんどみられなかった。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、北欧における高齢者介護のニーズ判定方法に焦点を当て、高齢者介護政策の近年の動向のコンテキストから分析し、それが実際のケア提供に与えるインパクトを多角的に捉えようとするものであった。フィールドとしては、北欧諸国のうちデンマークとスウェーデンをとりあげた。両国の高齢者介護に関連する諸制度、政策動向を踏まえ、ニーズ判定方法の変遷を検討し、それがニーズ判定部門とホームヘルプ供給主体との関係や介護現場に与える影響を実証的に明らかにすることが本研究の目的であった。

(2) 本研究では研究対象国をスウェーデンとデンマークとした。これは、スウェーデンとデンマークでは民間委託が導入された背景が異なっており、それをふまえて、両国のニーズ判定・ケアマネジメントの体制とインパクトを比較検討することで、より立体的に

諸相が把握できると考えられたからである。本研究ではまず、スウェーデンとデンマークのニーズ判定方法の変遷を高齢者介護政策の動向と関連付けつつ検討した。両国の自治体から調査対象自治体を抽出し、ニーズ判定に用いる基準、実際の判定プロセス、ケアプラン作成方法などを詳細に調査する。そしてそれがホームヘルパーによるケア提供の場面において、どのように展開されているのか、またケアプランと利用者のニーズとの乖離が介護職員と利用者にとどのように経験され、解決されていくのか、ニーズ判定部門とサービス供給主体との間にはどのような相互作用があるのかを、インタビューと参与観察等によって明らかにした。

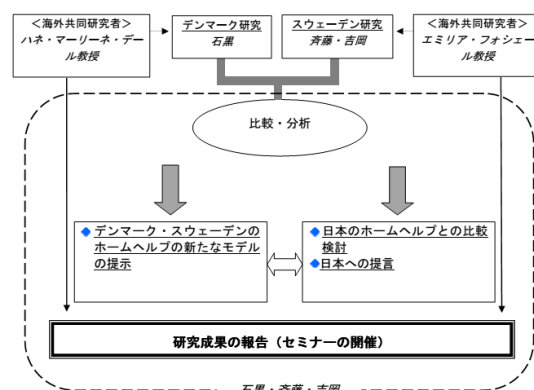
3. 研究の方法

(1) 研究会を開催し、先行研究のレビューと分析を徹底的に行うとともに、報告、討議、情報交換を行った。

(2) 海外研究協力者(エーシュタ・ショングール大学のエミリア・フォシェール教授とロスキレ大学のハネ・マーリーネ・デル教授)と共に日本の介護現場のヒヤリング調査とインタビュー調査を行い、調査結果についての議論を行った。

(3) デンマークとスウェーデンの自治体に協力を要請し、現地調査を実施した。デンマークはAarhus市、Silkeborg市、Fredericia市、Aalborg市でスウェーデンはStockholm市においてヒヤリング調査とインタビュー調査を行った。

(4) 研究を進めるなかで、デンマークやスウェーデンの介護とニーズ判定の諸相をよりの確にとらえるために、日本の政策や現状を詳細に分析し、北欧と比較分析する必要が生じてきた。そこで、まず現場でケアを提供する介護職員への国際アンケート調査を日本で実施した。介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設、訪問介護事業所で働く介護職員を対象に、合計2,440票の調査票を配布し、1,060の有効回答を得た。SPSSを使用して北欧の調査結果との比較分析を行った。



4. 研究成果

(1) デンマークやスウェーデンの高齢者介護制度においては、ホームヘルプ供給主体の多元化により、ホームヘルプ供給部門とニーズ査定部門を分離させたBUMモデルという体制がとられている。しかし、BUMモデルについてはデメリットも指摘されている。従前は、ケアが提供される現場で利用者に関わりのある介護職員や看護職員によってニーズ判定が行われていたが、BUMモデルの導入により、現場とつながりを持たない判定員がニーズ判定を実施することになり、その是非が問われている。現場職員が利用者にケアを提供しながらモニタリングし、サービス内容の調整にフィードバックしていくというシステムが機能しにくいと、サービスとニーズのミスマッチが生じるといったケースも報告されている。これに対してケアの現場では、ホームヘルパーが中核的な役割を担い、利用者のニーズの変化に柔軟に対応し、「関係的な力」(relational power) を行使することによって、ケア実践現場と判定現場の乖離によるBUMモデルの弊害を改善していることが明らかになった。

(2) これらの研究成果は、論文・書籍を執筆して報告し、さらに国内外の学会でも報告を行った。また、下記のセミナーを開催し、研究成果を広く一般に公開した。

- ・「高齢者介護のニーズ判定～日本とスウェーデンの高齢者介護現場から～」
(2013年11月27日、大阪大学吹田キャンパス)
- ・「スウェーデンの社会福祉と市民社会 - 高齢者介護とホームレス支援に焦点をあてて -」(近畿地域福祉学会との共同企画)
(2013年12月7日、滋賀県立長寿社会福祉センター)
- ・「北欧における高齢者ケアのパラドックス」
(2014年6月3日、大阪大学吹田キャンパス)
- ・「デンマークの高齢者介護 - イノベーション、課題と戦略」
(2014年6月4日、大阪大学豊中キャンパス)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

- 石黒暢、日本とデンマークの介護労働環境を考える - 介護労働者のストレスとその背景 -、IDUN - 北欧研究 -、査読無、21号、2015、281-298
- 斎藤弥生、日本と北欧諸国におけるホームヘルプの比較研究 - 「ケアの合理性」概念に焦点をあてて -、IDUN - 北欧研究 -、査読無、21号、2015、247-264
- 吉岡洋子、介護労働者の実像に関するスウェーデンと日本の比較研究 - ホームヘル

パーと施設職員の属性を中心に -、IDUN - 北欧研究 -、査読無、21号、2015、265-280

石黒暢、単身化社会とコレクティブハウジングの可能性～デンマークのシニア向けコレクティブハウジングの経験から～、地域福祉研究、査読無、No.43、2015、40-51

斎藤弥生、小地域における福祉ガバナンスを比較する - ビネット調査の可能性と課題、月刊福祉、査読無、97、2014、20-23

Saito, Yayoi, Eldercare Transition and Welfare State in Japan, Care im Spiegel soziologischer Diskussion (to be published Special Issue 20 of the Journal), 査読有, Soziale Welt 2013, 2014, 419-434

石黒暢、デンマークにおける予防的家庭訪問に関する考察 - 福祉情報化の視点から、社会政策、査読有、5(3)、2014、137-148

斎藤弥生、スウェーデンにおける介護サービスの民営化と市場化に関する一考察 - バウチャーシステムと家事労働控除(RUT-avdrag)の導入をめぐる、北ヨーロッパ研究、査読無、8巻、2012、23-38

斎藤弥生、スウェーデンの社会保障制度における国と地方の関係 - 介護サービスにおける「サービス選択自由化法」の影響を中心に、海外社会保障研究、査読無、第180号2012年秋号、2012、59-75

Ishiguro, Nobu, Spidsen: Er valgfrihed altid oenskelig? Gerontologi, 査読無, nr.4, aargang 28, 2012, 16-17

吉岡洋子、2000年以降のスウェーデンにおける高齢者福祉の動向、海外社会保障研究、査読無、178号、2012、34-44

斎藤弥生、スウェーデンにおける女性高齢者の所得保障：年金を中心に、海外社会保障研究、査読無、175号、2012、9-25

[学会発表](計7件)

Nobu Ishiguro & Yayoi Saito, Care Relations in Elder Care in Japan and Denmark, 13th Annual ESPAnet Conference, September 4th, 2015, Syddansk Universitet, Odense, Denmark (発表確定)

Saito, Yayoi, Nobu Ishiguro, Yoko Yoshioka, Momoko Sato & Marta Szebehely, Comparative Study of Elder Care Work in Japan and Sweden, 12th Annual ESPAnet Conference, September 5th, 2014, HiOA, Oslo, Norway

Theobald, Hildegard, Yayoi Saito & Nobu Ishiguro, Comparative Eldercare from Care Workers Perspective: Germany, Japan and Sweden, Seminar on the Eldercare in a Comparative Perspective, October 18th, 2014, 大阪大学中之島センター(大阪市)

斎藤弥生、石黒暢、吉岡洋子、介護労働環境の国際比較研究(1) - 日本、スウェーデン、デンマークのホームヘルパーの裁量に

焦点をあてて -、日本社会福祉学会第 61 回秋季大会、2013 年 9 月 22 日、北星学園大学（北海道）

石黒暢、齋藤弥生、吉岡洋子、介護労働環境の国際比較研究(2) - 日本とデンマークの介護労働者の労働負担 -、日本社会福祉学会第 61 回秋季大会、2013 年 9 月 22 日、北星学園大学（北海道）

吉岡洋子、齋藤弥生、石黒暢、介護労働者の実像に関する日本と北欧 4 カ国の国際比較 - ホームヘルパー及び施設職員への質問紙調査から -、日本社会福祉学会第 61 回秋季大会、2013 年 9 月 22 日、北星学園大学（北海道）

石黒暢、齋藤弥生、吉岡洋子、日本とスウェーデンの高齢者介護比較研究 - ボトムアップ視点からの検討、北ヨーロッパ学会第 11 回研究大会、2012 年 11 月 10 日、明治学院大学白金キャンパス（東京）

吉岡 洋子 (YOSHIOKA, Yoko)
頌栄短期大学・保育学科・准教授
研究者番号：80462018

〔図書〕(計 5 件)

Paul Midford, Yayoi Saito, John Creighton Campbell, Unni Edvardsen, Palgrave Macmillan, Eldercare Policies in Japan and Scandinavia: Aging Societies East and West, 2014, 288(51-69)

上野谷加代子・齋藤弥生、ミネルヴァ書房、ソーシャルワークと福祉ガバナンス：ピネット調査による国際比較、2015、267(54-71, 88-116, 117-182)

岡澤憲英・神野直彦・宮本太郎・藤井威・小森宏美・三瓶恵子・安倍オースタッド玲子・木下綾・中間真一・渡邊芳樹・篠田武司・小川有美・渡辺慎二・木下淑恵・川野秀之・藪長千乃・吉武信彦・阿部望・猿田正機・穴見明・福島淑彦・馬場義久・秋朝礼恵・齋藤弥生・アグネ・グスタフソン、ミネルヴァ書房、北欧学のフロンティア：その成果と可能性、2015、414(388-397)

齋藤弥生・石黒暢、大阪大学、高齢者介護に関する国際比較調査 (NORDCARE 調査) 日本調査結果報告書、2013、114

後藤玲子、武川正吾、古川孝順、齋藤弥生、新・社会福祉士養成講座 4 現代社会と福祉 (第 3 版)、中央法規出版、2012、372(290-307)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石黒 暢 (ISHIGURO, Nobu)
大阪大学・言語文化研究科・准教授
研究者番号：20273740

(2) 研究分担者

山井 弥生 (齋藤 弥生)
(YAMANOI, Yayoi (SAITO, Yayoi))
大阪大学・人間科学研究科・教授
研究者番号：40263347